

2021 年 7 月
1164 号

万葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町 5

(一冊の会研究室)

初のオンライン櫻華塾開催

～新型コロナウイルス感染症による行動制限が続く中で～

昨年 11 月に大槻会長のオンライントークを開催しました（詳細は万葉 1163 号参照）。東京都には新型コロナウイルス感染症による 4 回目の緊急事態宣言が 7 月 12 日から出され、一堂に会することができない状況が続いている中、18 日、初めて事務所から発信をするオンライン櫻華塾を開催しました。

「聞こえていますか？」の確認の後、小山さんが「お久しぶりでございます、お元気ですか？」とはつらつとしたお声で、集まることができない残念な気持ちや、リモートに慣れずに心配な気持ちを吹き飛ばしてくださいました。「梅雨が終わり暑い時期がやってきました。長梅雨で被害もできましたし、すぐに台風のシーズンがやってきます。備えをしておきましょう」と、新井さんが作っている「防災頭巾」を紹介しました。避難所で必要な物をまとめた「マイ頭巾」とのことです。

コロナ渦の中でも一冊の会の活動は推進しております。タンザニアの大使公邸に植えたプロスパーポローニアの木は大きく成長しています。また、福島県相馬市の災害公営住宅に設置した「雪香灯」をリニューアルしました。もう少し明りが欲しいとのことで、下の方で光っている街路灯を追加し、大きく明るく光っております。



◆7 月 18 日はネルソン・マンデラ国際デー

「今日はマンデラさんの日です！」会長の凜とした声が画面越しにも響きました。2009 年、国連はネルソン・マンデラ氏が生まれた 7 月 18 日を国際デーの 1 つに定め、マンデラ氏が 67 年間持続した活動に敬意を表して少なくとも 67 分間の社会奉仕活動をするよう呼びかけています。

一冊の会では ANC（アフリカ民族会議）のマツエラ氏を通して支援をしてきました。1992 年、神田に事務所のあった ANC を通してマンデラ氏に鉛筆等の文具支援を行いました。当時 ANC 駐日代表のマツエラ氏から自転車を 20 台支援して欲しいと依頼があり、大槻会長は周囲に熱く声掛けをして中古の自転車をなんとか集め、整備し、綺麗にペンキを塗って寄付したのです。その時の真心をマツエラ氏は大変感謝され、ANC の事務所が閉所する際、当時社民党代表であった土井たか子氏と弁護士の林陽子先生（後に国連女性差別撤廃委員会・委員長）、そして大槻会長と小山副会長を立会者として指名されました。第一回アフリカ開発会議（会場；国連大学）で大槻会長がマンデラ氏にお会いになられた際、マンデラ氏から支援に対して心からの感謝の意を伝えられたとのことです。

そのマンデラ氏も受賞されたザ・ブランドローリエ・ブランド ICON リーダーシップ賞を、2019 年に大槻会長が受賞されたことは、大変素晴らしいことです。会長の偉業を誇るだけでなく、我々も一冊の会の理念と活動

を未来へとつなぐことができるよう、日々精進していきましょう。

◆人権紙芝居「民権ばあさん 楠瀬喜多」を高知県へ寄付

一冊の会は、長年に亘り人権紙芝居を製作。中でもより良い日本を築く為に立ち上がった一冊の会永久最高顧問相馬雪香先生のご尊父・憲政の父「尾崎行雄」と、女性参政権要求第一号「楠瀬喜多」の紙芝居は、出前講座を日本のみならず世界各地で行ってきました。一冊の会の 50 周年記念では、尾崎行雄と楠瀬喜多の紙芝居を DVD 化し、より多くの方々へお届けしております。

楠瀬喜多の紙芝居作成の際、傍所固めの為に大槻会長は楠瀬喜多生誕の地である高知へ飛びました。「楠瀬喜多は坂本龍馬の幼友達で喧嘩仲間でした。といった方が分かるかもしれませんね」と会長はおっしゃいました。楠瀬喜多は、39 歳で未亡人となっても自ら働いたお金で【戸主】としてしっかりと税金を納めていました。戸主としての責任を果たし、国民として義務である納税は行っても、【参政権】という権利を与えられないことに大いに反発をし、参政権要求をする為の運動を起こすのです。しかし政府によって喜多や他の者の要求も空しく女性への参政権は認められませんでした。女性の参政権が認められたのは皆さん御存知の様に 1946 年 4 月 10 日なのです。

昨年は楠瀬喜多の没後 100 年にあたり、高知市立自由民権記念館の開館 30 周年記念行事として昨年 10 月に企画展「民権ばあさんと女性参政権」が開催されました。開催にあたり、一冊の会が当初 5 部作製した楠瀬喜多の人権紙芝居の 1 つを、この度高知市教育委員会民権・文化財課へ贈呈しました。本当は会長に記念セレモニーに来て欲しいという話もあったのですが、コロナ渦で現地へ赴くことはできませんでしたが、紙芝居は展示されたそうです。より多くの児童・生徒が楠瀬喜多の偉業を学び、婦選の松明を絶やさず未来へと繋げて、ジェンダー平等で平和な世界を築いて欲しいと願います。

◆「生涯学習」 日本の歴史を学び後世へ繋げよう

1967 年に 3 歳半から 4 歳の子どもたちに対する読み聞かせの活動を開始した一冊の会。子どもたちには、イソップ物語、かぐや姫などを。お母さんを対象にまず、日本の歴史を知ることが大事という事で、古事記、日本書紀、万葉集の読み合わせ等多くの本を読み合いました。日本の歴史について学ぶようになり、現在も持続しております。今年は令和 3 年になりますが、日本の歴史を語る上で、天皇家の歴史は欠かせません。一冊の会では人権紙芝居として聖徳太子の生母・間人皇后^{はしうど}の物語も作成しております。大槻会長と小山副会長は、間人皇后の人権紙芝居の作成にあたり京都の丹後に飛び情報を自らの足で集めました。完成した紙芝居の最後のページには、制作上お世話になった方々が七福神のキャラクターに扮してコメントを寄せて下さっています。一冊の会の人権紙芝居は、現地に赴き自ら情報を集め必ず地元と手をつないで作成しています。多くの方に支えられて制作しています。

◆東北支援 135 回目

一冊の会は東日本大震災による津波の被害を被った地域へ、震災発災直後から今日に到るまで継続して支援しております。発災から 10 年を迎えようという 2 月 13 日、深夜、福島県浜通りで、震度 6 強の大きな地震があり、10 年前の巨大地震に匹敵するような地震が発生。相馬市を中心に大きな被害を受けた事を知り、一冊の会有志で募金を集め、3 月 11 日、大槻会長は福島県相馬市へ行き全国市長会の会長である立谷相馬市長に「お見舞い金」をお渡し致しました。今回で 135 回目の支援となりました。思いがけず市長から「135 回にわたる御支援に

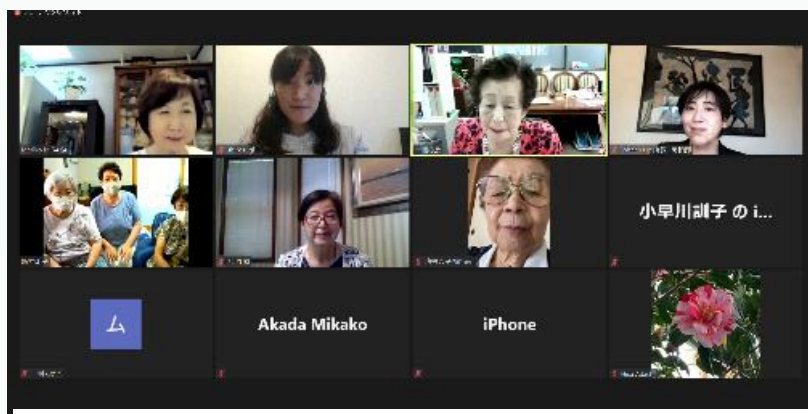
深謝」とのお言葉をいただき、それをハンカチに書いて下さいました！世界堂で額縁を作って、大切に納めております。皆様が今までに行った支援はダイヤモンドのように輝いております。その後 2 回東北に伺い、一冊の会は今までに 137 回の支援をしております。



コロナ禍で集まるのが難しい中で、山内さんの力添えもあり初めて開催されたオンライン櫻華塾。画面上ではありますが、元気な大槻会長、小山副会長のお姿を目にすることが出来たのみならず、メンバーの皆さんの笑顔も目にして、心が温かくなりました。また開催日の7月18日は箱根参事の誕生日ということで大槻会長からお祝いの言葉がありました。

いつも桜華塾の最後は石田理事長のお話で、参加の皆さんが納得し感謝しての終了でした。石田理事長のお顔が見られなくてとても淋しかったです。次回は必ずお目にかかりますよう楽しみにしております。

最後に、終了後に事務所に届いた感想を、抜粋して掲載いたします。



大槻会長と参加したメンバー（Zoom 画面）

コロナ禍で変化した世の中でも、変わらず信念を持ち続け積極的活動されている大槻会長、小山副会長の澆刺とした姿を目の当たりにして襟を正す気持ちで胸がいっぱいになりました。

一冊の会の人を思いやり行動するという真の力を強く感じました。特に東北支援への感謝を敬して立谷秀清相馬市長から頂きました立派な署名を特注の金枠に納め、その堂々とした凛とされた姿こそが一冊の会の創立以来変わることのない精神そのものと感じました。（城杉）

コロナ禍にあっても活動の歩みを止めない大槻会長と小山副会長のお姿に、日常に忙殺されて歩みを止めてしまっていた自分を恥ずかしく思いました。たとえ細くても長く頑張っていこうと、心を新たにしました。（赤田）

この度は zoom オンライン櫻華塾の開催誠にありがとうございます。移動中に視聴させて頂きました。相馬の市長に書いていただいた立派な額を拝見し、あらためて感動致しました。被災者に寄り添いながら走り続けてきた尊い証です。コロナ禍で、素晴らしい講演をして頂き、本当にありがとうございました。心温まる内容で大変勉強になりました。スタッフの皆様方にも心から厚く御礼申し上げます。（平間）

久しぶりに大槻会長のパワフルな御講義、嬉しく視聴いたしました。また、Zoom 上で皆様とお会いでき感謝です。先月国際クラブで、一冊の会で学んだ楠瀬喜多没後100周年と婦人参政権の歴史を英語でスピーチすることができました。本日の大槻会長のお話の持続の大切さを心に、学んでまいります。（三坂）

「いざ！」お講義が始まると、何と！お元気で!! この気迫の凄まじき!!

益々、お元気で、益々、意欲的で、前へ！前へ!!

このお姿に驚嘆致しました。

砂漠の渇き切った砂に水が浸み込むように、すべての知識が、感性が、思いが、意欲が、情熱大陸に吸い込まれて大使命を生き抜いておられるお姿を目の当たりにして、大感謝の1日でした。

もったいないお講義を一人でも多くの人に伝えねばならぬ！と決意を新たに致しました。

感謝を込めて。（鈴木）

文責：城杉主任研究員、赤田主任研究員